

マイスター・ハイスクール普及促進事業

北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト

令和6年度（2024年度）成果報告書



商業

家庭

農業

工業

看護

水産

福祉



～専門高校とは～

職業教育を主とする学科を設置する高校を「専門高校」といい、本道には7つの学科の専門高校が設置されています。

令和7年（2025年）3月

北海道教育庁学校教育局高校教育課



産業界と一体となった専門高校 ONE-TEAM の取組

北海道教育庁学校教育局高校教育課長 高 田 安 利

本道においては、広域分散型という特性上、学科や地域産業の特色等に応じて、専門高校が分散して設置されており、これまでも、地域で活躍する職業人を育成するとともに、勤労観・職業観の育成、豊かな感性や創造性を養う総合的な人間教育の場としても大きな役割を果たしてきました。

こうした中、近年、第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション、6次産業化など、産業構造や仕事の内容が急速かつ絶えず革新する中、専門高校では、産業構造の絶え間ない変化に即応した職業人材の育成が急務となっています。

このような背景・課題に対応するため、北海道教育委員会では、文部科学省「マイスター・ハイスクール普及促進事業」の指定を受け、北海道静内農業高等学校が国の「マイスター・ハイスクール事業」（令和3～5年度）で構築した職業人材育成システムを参考に、専門高校と産業界とのサステナブル（持続可能）な連携体制の構築を目指し、令和6年度からの2か年事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」に取り組んでいます。

本プロジェクトでは、高校教育課に配置している産学連携コーディネーターを中心として、「横」と「縦」の2つの視点で、専門高校を支援しています。

「横」の視点とは、専門高校が学校・学科の垣根を越えて連携し、効果的な職業人材育成システムの取組を、他の専門高校に自走可能な形で横展開することであり、「縦」の視点とは、専門高校と企業や中学校との連携を促進するとともに、専門高校の価値や魅力を広く普及・啓発することです。

さらに、これらの取組を円滑かつ効果的に実行するため、産業界等の有識者で構成される事業運営委員会「ONE-TEAM コミッティ」を設置・運営しており、委員の皆様には、本プロジェクトの推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を通じて、専門的見地から貴重な助言等をいただいています。

プロジェクト2年目となる令和7年度は、北海道静内農業高等学校が、地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを、道内の4圏域に設定した拠点校を中心として実践し、その成果をさらに道内の専門高校に普及することで、全ての専門高校における産業界との連携を充実させてまいります。

結びになりますが、本プロジェクトに際し、御支援・御協力をいただいております皆様に深く感謝申し上げますとともに、学校や産業界、経済団体など、本道産業教育に関係する多くの皆様に本報告書を御高覧いただき、今後の本プロジェクトの充実・発展のため、貴重な御意見や御助言をいただければ幸甚に存じます。



産学連携の実現、その先にある産学融合に向けて

北海道教育庁学校教育局高校教育課

産学連携コーディネーター 月 館 海 斗

令和6年度に始動した「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」は、産学連携コーディネーターである私にとっても、産学連携の可能性を広げる試みとして、日々が学びの連続であり、答えのない中での模索や学校現場との対話を通して取り組んできた一年間でした。

事業運営委員会である「ONE-TEAM コミッティ」による協議内容や、先生方を対象とした学校ヒアリング調査の結果を踏まえて、様々なイベントやセミナーなどを開催してきた中、専門高校の生徒と教員、産業界の方が一堂に会する「産学連携シンポジウム」や「産学連携カンファレンス」では、企業のリアルな声と教育現場の実情が交わる場を設け、双方の視点から「サステナブルな産学連携」について考える機会となりました。

とりわけ、こうしたイベントの場では、生徒、教員に加え、企業の方も立場や役職を越えて、率直に語り合う姿が印象的であり、「お互いの肩書きを越えて共創するからこそ、イノベーションが生まれる。」と実感する瞬間が数多くありました。やはり、教育と産業の接点は、形式的な連携ではなく、人と人の信頼関係から生まれるものであり、その橋渡し役として、私たちが果たすべき役割の大きさをあらためて感じています。

また、中高生向けに制作した「おしごとガイドブック」では、地域を支えている専門高校の卒業生から、それぞれの産業において、高校時代の学びが今の仕事にどう生きているかなど、生の声を多く掲載することで、北海道の未来を創る中高生の「将来の選択肢」が具体的に見えるよう工夫しました。ガイドブックを読んだ中高生からは、「北海道内の魅力ある職業に興味を湧いた。」などの感想が寄せられるなど、多くの中高生や産業界の方々から好評をいただいています。

終わりにになりますが、本プロジェクトの成果は、関係者各位の御尽力と御協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。令和7年度は、北海道静内農業高等学校が培ってきた実践知を拠点校4校が引き継ぎ、道内全域へと展開していく“成果の普及年”です。各地域において、学校が産業界との関係性を大切にしながら、地域に根差した産学連携、そして、その先にある産学融合への支援を続けていきます。引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

目 次

巻頭言

北海道教育庁学校教育局高校教育課長

高 田 安 利

北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター

月 館 海 斗

1	事業の概要	P 1
2	事業概要図	P 2
3	事業内容	
	(1) イベント	
	ア キックオフミーティング	P 4
	イ 産学連携シンポジウム	P 6
	ウ 高校生チャレンジ in どさんこプラザ	P 9
	エ 4 Sサミット	P 11
	オ 産学連携カンファレンス	P 13
	(2) 刊行物（各刊行物の概要は 16 ページに掲載）	
	ア ONE-TEAM ニュース	P 17
	イ 職業学科理解推進ガイド	P 29
	ウ おしごとガイドブック（中学生版、高校生版）	P 40
	エ 産業実務家教員リスト	P 50
	(3) 生徒を対象とした新たな産業や技術革新に対応した取組	
	ア 半導体に関する出前授業	P 53
	イ 洋上風力発電に関する出前授業・見学バスツアー	P 53
	(4) 各種セミナー	
	ア 建設 DX 理解促進セミナー	P 54
	イ 半導体理解促進セミナー	P 56
	ウ 観光産業理解促進セミナー	P 58
	エ 洋上風力発電理解促進セミナー	P 60
	オ 職業学科理解促進セミナー	P 62
	(5) ONE-TEAM コミッティ	P 63
	(6) 各種調査	
	ア 学校ヒアリング	P 64
	イ 企業ヒアリング	P 64
4	成果概要図	P 65
5	成果指標	P 68
6	参考資料	P 69

1 事業の概要

(1) 事業名

北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト

(2) 実施期間

令和6年度（2024年度）から2年間

(3) 令和6年度拠点校

北海道静内農業高等学校

(4) 事業内容

次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入など、産業構造が大きく変化している中、北海道教育委員会に産学連携コーディネーターを配置し、マイスター・ハイスクール事業の指定校における産学連携による教育実践を踏まえ、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する。

(5) 事業運営体制

ア 管理機関（北海道教育委員会）

高校教育課に産学連携コーディネーターを配置するとともに、経済団体、自治体、教育機関等の有識者で構成し、産学連携に係る課題解決に向けた協議等を行う事業運営委員会「ONE-TEAM コミッティ」を設置し、静内農業高校がマイスター・ハイスクール事業で取り組んできた地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを、道内の専門高校に広く発信する。

イ 産学連携コーディネーター

産学連携シンポジウム等の各種イベントの開催や、本事業の取組を紹介した学校や産業界向けの通信の発行などを通じて、学科の特性に応じて、専門高校と産業界等を人的につなげる。

ウ ONE-TEAM コミッティ

有識者8名で構成し、本プロジェクトの円滑な推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言を行う。

(6) 連携体制を構築する産業分野

6次産業（農業、商業、水産）、半導体関連（工業）、洋上風力発電（工業、水産）、観光DX（商業）、スマート農業（農業）、スマート水産業（水産）など

(7) 連携する産業界等名

- ・北海道経済連合会
- ・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
- ・一般社団法人北海道農産協会
- ・北海道産業教育審議会

(8) 公式ロゴマーク

本事業の取組を、効果的かつ幅広く産業界に周知するため、右に示した公式ロゴマークを制作した。中央の7つの★は、本道に設置している7つの職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）を表している。



【図1】公式ロゴマーク

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

本道においては、次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が大きく変化している中、産学連携コーディネーターが産業界と専門高校をつなぎ、先進的な取組を学べる持続可能な連携体制を強化。

専門高校と産業界の連携における課題

- ①連携した取組が少ない
- ②連携の進め方や配慮点が不明
- ③ニーズ等が異なり、連携が進みづらい
- ④教員が多忙なため企業等と調整不足

対応

課題解決の方法

- ①連携ができる企業先を開拓
- ②連携を促進する教員・企業研修を開催
- ③コーディネーターが連携を後押し

参考



市内農業高校の取組

- ◆産業界等と一体となったカリキュラムの刷新・実践
- ◆CEOが企業と学校をコーディネート
- ◆産業実務家教員による技術指導等



ONE-TEAMコミットメントの発足

産学連携に係る課題解決に向けた協議、教員・企業向け研修の企画や事業の評価・改善を行う事業運営委員会



◆1年目(R6)【発信】

市内農業高校（拠点校）
×
ONE-TEAMコミットメント
拠点校で自走している職業人材育成システムを専門高校へ発信

◆2年目(R7)【横展開】

拠点校を拡大（農工商水※）
※各1校
×
ONE-TEAMコミットメント
持続可能な職業人材育成システムを専門高校へ横展開

ゴールイメージ



※持続可能な、ずっと続いていける

産学連携コーディネーターの役割

北の専門高校プラットフォームを創設

◆人的ネットワークの構築

職業学科担当の指導主事と連携し、学科の特性に応じて、専門高校と産業界（企業、振興局、市町村等）を、人的につなげる

◆産業実務家教員リストの作成

謝金等が不要で出前授業等が可能な職業人をデータベース化し、専門高校と産業界のつながりを後押し

◆産業構造の変化に対応

先端技術に従事する技術者を紹介したお仕事ガイドブックを制作

（例）・6次産業
・観光・デジタル技術
・半導体関連
・洋上風力発電 など

【データベース】

- ・産業関係者
×× ××
- ・産業関係者
○○ ○○
- ・産業関係者
▲▲ ▲▲

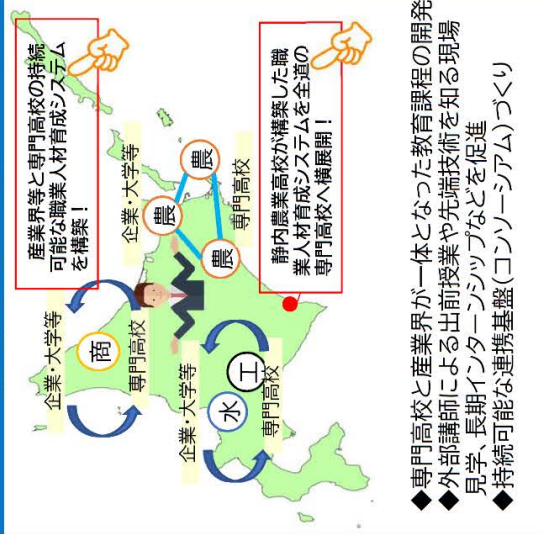
管理機関の役割

- ◆ONE-TEAMコミットメントを設置し、拠点校を中心として事業を推進
- ◆道内の専門高校に職業人材育成システムの構築を目指す
- ◆産学連携コーディネーターを配置し、職業学科担当の指導主事と共に、産学連携に係る課題解決に向けて学校を支援

拠点校の役割

- 【1年目（市内農業高校）】
各種ミーティング等を通して連携・協働体制の在り方を発信
- 【2年目（農工商水：各1校）】
各教科の特性に応じた連携・協働体制を検討し、情報を発信

横展開のイメージ図



【図2】令和6年度事業概要図（1ページ目／全2ページ）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

令和6年度の事業概要

- ◆事業運営委員会「ONE-TEAMコミッティ」を設置し、専門高校のサステナブルな職業人材育成システムの在り方についての協議を行い、キックオフミーティング等を通じて、拠点校（静内農業高校）の取組や成果を広く専門高校に普及・啓発。
- ◆専門高校の人的ネットワークの構築とともに、生徒や教員が新たな産業構造を理解する機会を創出。

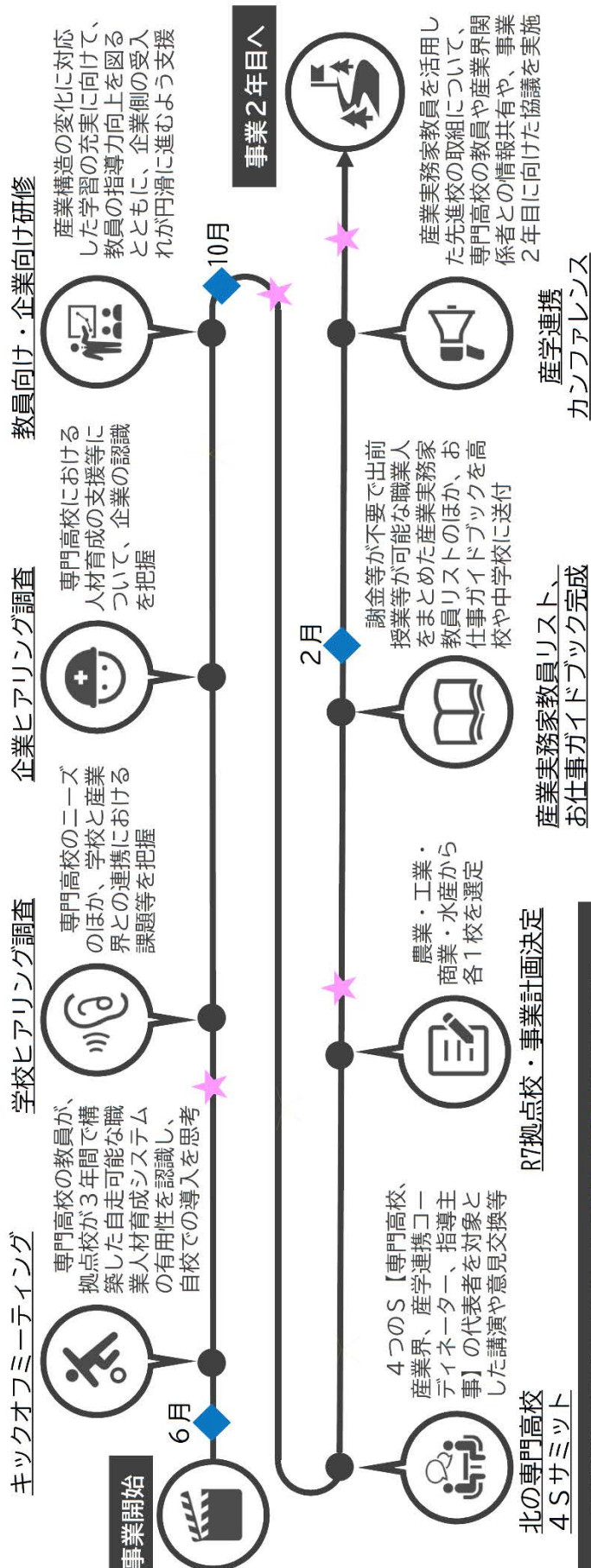


令和6年度の取組とスケジュール

◆：ONE-TEAMコミッティ

★：ONE-TEAMニュース

※産業教育関係者に向けた通信



半導体に関する出前授業

工業高校を中心とした専門高校に、大学等の教員を産業実務家教員として招き、生徒や教員が先端技術を学ぶなど、産業構造の変化に対応。

工業 × 商業 × 農業

どさんこプラザでの販売会

農業高校や商業高校、水産高校等の生徒が企業と連携して開発した商品を、北海道のアートナショナルで販売するなど、6次産業を体験。

農業 × 水産 × 商業

洋上風力発電セミナー等

洋上風力発電に関する職業人を産業実務家教員として招き、生徒や教員を対象としたセミナーや出前授業のほか、バスツアー等を実施。

工業 × 水産

建設DX理解促進セミナー等

DXや働き方改革の取組について、建設業協会の関係者等を産業実務家教員として招き、生徒や教員を対象としたセミナーや意見交換を実施。

工業 × 水産 × 農業

【図3】令和6年度事業概要図（2ページ目／全2ページ）

3 事業内容

(1) イベント

ア キックオフミーティング【令和6年7月8日（月）開催】

専門高校の教員が本事業について理解を深めることを目的に、会場参集・オンラインのハイブリット方式で開催した。全道から専門高校の代表教員86名が参加し、本事業の説明や講話に加え、今後の産業界とのサステナブルな連携の在り方について協議を行った。

◆発表「マイスター・ハイスクール事業の研究成果について」

▶ 北海道静内農業高等学校教頭 工藤 淳 氏

【主な内容】

マイスター・ハイスクール事業における自校の実践事例や、今年度から取り組んでいる自走化した職業人材育成システムの仕組みなど



◆基調講話「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」

▶ 北海道農産協会てん菜部長（前マイスター・ハイスクール CEO） 桑名 真人 氏

【主な内容】

静内農業高校の事例を参考に、産業界との連携を進める上でのポイント、信頼関係の重要性や持続的に関わるプラットフォーム形成など



発表する桑名氏（左）と会場の様子

◆協議「自校における持続可能な産業界との連携について」

【主な内容】

参加者が 11 のグループに分かれ、産業界との望ましい連携の在り方について、生徒や地域など、それぞれの視点から「理想の姿」を設定し、その実現に向け「自分たちに何ができるか」、「何が必要か」をテーマに、実践できる取組について思考した。

学科の垣根を越え、異なる学科の先生方で協議を行ったことで、参加者からは「新たな視点や気づきが多くあった。」「もっと協議の時間がほしかった。」といった声が多く、産学連携について考える貴重な機会となった。



協議の様子（左）と付箋に書かれた多くの意見

国の「マイスター・ハイスクール事業」(R3～R5)において、静内農業高校が構築した職業人材育成システムを、道内の専門高校に広く横展開する新規事業について理解を深めるミーティングを開催します。

道内

農業 工業 商業 水産 家庭 看護 福祉

の専門高校代表者が一同に介する



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 キックオフミーティング



令和6年(2024年)

7月8日(月)

13:30～16:15

会場：第二水産ビル 8A会議室

(札幌市中央区北3条西7丁目1)

※Zoomによるオンライン参加も可

内 容

- ・発 表 「マイスター・ハイスクール事業※の研究成果について」
北海道静内農業高等学校教頭 工藤 淳 氏
- ・説 明 「本事業の概要等について」北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
- ・講 話 「専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方について」
(一社)北海道農産協会てん菜部長(前マイスター・ハイスクールCEO) 桑名 真人 氏
- ・協 議 「自校における持続可能な産業界との連携について」
- ・まとめ 「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」産学連携コーディネーター 月館 海斗 氏

※マイスター・ハイスクール事業とは？

産業界等と一体となった教育課程開発等の先進的取組を行う都道府県等・専門高校が中核となって牽引する産業界等と連携した人材育成の広域ネットワークの構築や、産業界等との連携に課題のある地域の連携体制強化の取組を実施する事業

参加対象

- 1 道内の専門高校で職業学科を担当する教諭等※道立高校については、1つの大学科につき、1名分の旅費を措置します。
- 2 専門高校を所管する教育局の指導主事1名
- 3 その他、産業教育に関心のある教育関係者

申込方法・申込〆切

各教育局からの通知に従い申し込んでください。

【主催】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

お問合せ先 TEL 011-204-5705

【協力】北海道静内農業高等学校

静内農業高校の
取組はこちらの
Webページから



北海道教育委員会



静内農業高校



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」における取組の方向性を皆さんで共有しませんか。



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

【図4】チラシ(キックオフミーティング)

イ 産学連携シンポジウム〔令和6年11月18日（月）開催〕

本事業における取組が、専門高校と産業界の持続可能な連携に資するよう、参加者が事業内容や連携の意義等について共有することを目的に開催した。企業・学校関係者など、会場参集・オンライン参加を合わせて137名が参加し、持続可能な産学連携の在り方及び今後の北海道における職業人材育成について考える貴重な機会となった。

◆発表①「産業界と連携した学びで私が得たもの」

▶ 静内農業高校生産科学科3年 三浦 聖晴 さん

【主な内容】

- ・中央競馬会等と連携した馬の裂蹄治療についての学習や、軽種馬牧場におけるデュアルシステム
- ・産業界と連携した実践的な学びを通して「地元の牧場へ就職したい」という目標が生まれたこと



発表する三浦さん

▶ 札幌工業高校土木科3年 飯島 道大 さん

【主な内容】

- ・新幹線のトンネル工事の視察や、地域の広場の整備（通路の整備、ベンチの製作）などに関わる産業界と連携したプロジェクト学習
- ・将来は、「国や地域に貢献する技術者になりたい」という目標をもつようになった理由



発表する飯島さん

▶ 旭川商業高校流通ビジネス科3年 佐藤 藍 さん

【主な内容】

- ・ノーステック財団や地元企業の支援を得て、旭川農業高校と連携した「Project A」の取組
- ・産業界と連携した学習を通して、商品開発や物流についてなど、日常の授業だけでは学習することができない多くの学びがあったこと



発表する佐藤さん

◆発表②「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」

▶ 国分北海道株式会社人事総務部長 萩庭 寿人 氏

【主な内容】

- ・専門高校との連携に至ったきっかけ
- ・マイスター・ハイスクール事業における静内農業高校での取組
- ・水産高校との商品開発や農業高校との連携事業などの実践事例
- ・高校との関わりが企業側にもたらす効果
- ・取組の背景にある自社の理念や、北海道を元気にしたいという地域産業の活性化に向けた思い



発表する萩庭氏

◆パネルディスカッション「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」

▶【司会】

・北海道教育庁学校教育局高校教育課 産学連携コーディネーター 月館 海斗

▶【パネリスト】

- | | |
|---------------------------|----------|
| ・ 静内農業高校生産科学科3年 | 三浦 聖晴 さん |
| ・ 札幌工業高校土木科3年 | 飯島 道大 さん |
| ・ 旭川商業高校流通ビジネス科3年 | 佐藤 藍 さん |
| ・ 国分北海道株式会社人事総務部長 | 萩庭 寿人 氏 |
| ・ 北海道経済連合会常務理事 | 百瀬 康弘 氏 |
| ・ 株式会社砂子組企画営業部部長 | 真坂 紀至 氏 |
| ・ 国分北海道株式会社道央支社道央支店営業業務担当 | 高橋 柚珠乃 氏 |
| (令和5年度静内農業高校卒業) | |

【主な意見】

<産業界>

- ・ 産業界全体を考えて、人材育成につながる産学連携をするべき。
- ・ 行政、学校、企業の役割分担をして ONE-TEAM で取り組むことが重要。

<高校生>

- ・ 早いうちから産業界について知る機会がほしい。
- ・ 企業の方と初対面では質問もしづらいので、長期的な関わりの機会がほしい。



パネルディスカッションの様子



会場の様子

◆参加者の主な感想

- ・ 学科間や専門高校間の連携を積極的に行っていきたいと感じた。(学校関係者)
- ・ 業界全体で産学連携に取り組む必要性を感じた。(企業関係者)
- ・ 高校生の発表や活動のレベルの高さに驚かされた。(企業関係者)
- ・ 生徒と大人がフラットに意見を言い合って、みんなで未来を考える素敵な場であると感じた。(その他)

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」が、専門高校と産業界のサステナブルな連携に資するよう、事業の内容や連携の意義等について、情報共有する目的で実施します。



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 産学連携シンポジウム

11月18日(月)
13:30～16:30

会場：第二水産ビル 4S会議室
(札幌市中央区北3条西7丁目1)
※Zoomによるオンライン参加も可

内 容

- ・説明「本事業の概要等について」
北海道教育庁学校教育課キャリア教育指導係
- ・発表「産業界と連携した学びで私が得たもの」
北海道静内農業高等学校生産科学科3年 三浦 聖晴
北海道札幌工業高等学校土木科3年 飯島 道大
北海道旭川商業高等学校流通ビジネス科3年 佐藤 藍
- 「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」
国分北海道株式会社人事総務部長 萩庭 寿人 氏
- ・パネルディスカッション
「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」



←「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の取組はこちらのWebページから

※マイスター・ハイスクール普及促進事業とは？
産業界等と専門高校の連携体制強化による産業人材育成のための教育の充実を推進することを目的とした文部科学省の事業。

司 会	北海道教育庁学校教育課 産学連携コーディネーター	月館 海斗
パネリスト	国分北海道株式会社人事総務部長	萩庭 寿人 氏
	北海道経済連合会常務理事	百瀬 康弘 氏
	株式会社砂子組企画営業部部長	真坂 紀至 氏
	国分北海道株式会社道央支社 道央支店営業業務担当	高橋柚珠乃 氏 (R6年3月静内農業高校卒業)
	事例発表生徒3名	
・まとめ	北海道教育庁学校教育課 産学連携コーディネーター	月館 海斗



参加対象

- 1 道内企業・経済団体等の関係者
- 2 教育関係者のうち、参加を希望する者



北海道の次代を担う産業人材の育成に向けて専門高校との連携を模索してみませんか。

お申込はこちら↓



申込方法・申込〆切

右の二次元コードを読み取り、Googleフォームにて申込みを行ってください。
【11月11日(月)〆切】

【主催】北海道教育庁学校教育課キャリア教育指導係
【協力】北海道静内農業高等学校



【図5】チラシ（産学連携シンポジウム）

ウ 高校生チャレンジ in どさんこプラザ [令和6年12月13日(金)、14日(土)開催]

農業・商業・水産科の生徒が、学校や学科の垣根を越えて連携し、企業と協働で開発した商品を、JR 札幌駅構内にある北海道のアンテナショップ「どさんこプラザ札幌店」で販売し、6次産業化を学ぶ機会を創出した。

◆事前情報交換会

12月2日(月)には参加校による事前情報交換会を行い、商品提供校の生徒が商品のPRポイントなどを説明し、どの商品についても販売協力校の生徒がお客様にしっかりと説明できるよう情報交換を行ったほか、苫前商業高校の生徒が、商品提供校からの説明を参考に、チラシやポスター等を作成した。

【商品提供校】

函館水産、富良野緑峰、下川商業、留萌、更別農業、根室

【販売協力校】

苫前商業、富良野緑峰、留萌、更別農業、根室

◆販売会当日

商品の陳列やPR方法についてアイディアを出し合い、全ての商品を完売した。



陳列された商品



販売会に参加した生徒たち

◆事後情報交換会

販売会の2日後、12月16日(月)に事後情報交換会を行った。今回の販売会を振り返り、販売会に参加した生徒からは、「事前にもっと他校の商品を研究すべきだった。」という反省や、「商品のレシピなどを書いたチラシを作成するとよかった。」などの改善案が出された。

また、商品を提供した学校からは、「昨年より価格が上がった商品を、お客様はどのように受け止めていたか。」など、当日のお客様の反応について、販売会に参加した生徒に対して質問するなど、積極的な交流が見られた。

◆来場者の声

当日は多くの方が来場し、生徒に向けた感想や応援の声が多数寄せられた。

【感想等の一部】

- ・ 積極的で元気があって好感がもてた。商品説明もしっかりしてくれた。
- ・ 緊張しながらも頑張って声をかけてくれて、嬉しかった。
- ・ 高校生の独創的な商品をどんどん増やしてほしい。
- ・ 是非、今後もこのような企画を続けてほしい。

高校生チャレンジ in どさんこプラザ

令和6年12月13日(金)～14日(土)

札幌店



1 事前準備、事前情報交換会（12月2日）

各校の商品紹介をもとに、苫前商業高校がチラシやポスター等を作成しました。事前情報交換会では、商品提供校が商品のPRポイントなどを説明し、販売協力校の皆さんがどの商品についてもお客様にしっかりと説明できるよう、情報交換を行いました。

【商品提供校】

函館水産、富良野緑峰、下川商業、留萌、更別農業、根室

【販売協力校】

苫前商業、富良野緑峰、留萌、更別農業、根室



2 販売会の様子（12月13日、14日）

商品の陳列やPR方法についてアイディアを出し合い、全ての商品を完売しました。



【開店前に商品を陳列】



【販売頑張ります！】



【教育長も応援に来ました】



【販売する生徒】



【商品をPRする生徒】



【完売しました！】

3 事後情報交換会（12月16日）

販売会の2日後に、Zoomで事後情報交換会を行いました。今回の販売会を振り返り、販売に参加した学校の生徒は、「事前にもっと他校の商品を研究すべきだった」という反省や、「商品のレシピなどを書いたチラシを作成するとよかった」などの改善案が出されました。

また、商品を提供した学校からは、「昨年より価格が上がった商品を、お客様はどのように受け止めていたか」など、自校では知ることのできないお客様の反応について聞いていました。

4 来場者の声

来場者からは、「積極的で元気があって好感がもてた。商品説明もしっかりしていただいた。」「緊張しながらも頑張って声をかけてくれて、嬉しかった。」「といった生徒に対する感想や、「高校生の独創的な商品をどんどん増やしてほしい。」「是非今後もこのような企画を続けていただきたい。」などの応援の声が寄せられました。

【図6】まとめ（高校生チャレンジ in どさんこプラザ）

エ 4 Sサミット [令和7年1月24日(金)開催]

北海道の産業教育に携わる4つのS（専門高校、産業界、産学連携コーディネーター、指導主事）の代表者が集合し、産学連携に資する講演や意見交換等を通じて、それぞれの取組状況や課題等を把握し、持続可能な産学連携の実現に向けて目線合わせを行った。



【図7】4 Sサミットに参加した4つのS

◆基調講演「北海道に根ざした企業が考える人材育成～未来の北海道産業を考える～」

- ▶ 株式会社セイコーマート商品本部取締役本部長 辻道 雅彦 氏

【主な内容】

- ・ 地域との連携事例として、自治体との協定締結や、地域からの要請に応えた出店事例
- ・ 地域産品を活用した商品開発
- ・ 高校生対象の各種コンテストの開催や、次世代の人材育成に関わる各種取組の紹介



講師を務めた辻道氏

◆協議 [進行：ONE-TEAM コミッティ委員（北海道産業教育審議会会長） 岡部 善平 氏]

- ▶ 協議題1「縦のつながり～企業や中学校とのサステナブルな連携の実現に向けて」

【参加者からの主な意見】

- ・ 学校と企業の連携では、目的を共有して Win-Win の関係を構築することが大切。
- ・ 学校と企業で出来ることは異なるので、互いの得意分野を生かし、持続可能なキャリア教育を行うことが重要。

- ▶ 協議題2「横のつながり～職業学科の垣根を越えた専門高校 ONE-TEAM の実現に向けて」

【参加者からの主な意見】

- ・ 学科間の連携は、時間割や行事の調整など難しい面もあるため、第三者の調整役が入ることも一つの方法である。
- ・ 専門高校に入学すると、進路の選択肢が狭くなるイメージがある。学科間の連携を推進することで、より広い学びにつながるのではないか。



協議の様子



発言する専門高校の校長

◆まとめ

- ▶ ONE-TEAM コミッティ委員（北海道産業教育審議会会長） 岡部 善平 氏

【主な内容】

- ・ 学校と企業、中学校等との縦の連携において、まずは互いの目的を共有する場を設定することが大切。
- ・ 中高・産学・学科間の連携を単発の取組にせず、持続可能な形とすることが重要。

マイスター・ハイスクール普及促進事業
「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

4Sサミット



北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトにおける取組が、専門高校と産業界との持続可能な連携に資するよう、次年度に向けた共通認識を図るイベントです。

講演



講演のみ、Zoomによる一般参加が可能です

▼演題

「北海道に根ざした企業が考える人材育成
～未来の北海道産業を考える～」

▼講師

株式会社セイコーマート商品本部取締役本部長
辻 道 雅 彦 氏

一般参加対象

▼教育・産業界関係者で参加を希望する者

申込方法



右の2次元コードから専用フォームにアクセスし、必要な情報を入力してください。（定員300台）



申込Webページ

2025
1/24 金

【開会】 9:30

【講演】

9:35～10:35

【意見交換・協議等】

10:45～12:00

専門高校と産業界のサステナブルな連携の構築を目的とした「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の情報はこちらから



道教委Webページ

【主催】北海道教育庁学校教育局高校教育課
（お問合せ先：TEL 011-204-5705）



【図8】チラシ（4Sサミット）

オ 産学連携カンファレンス〔令和7年2月20日（木）〕

産業界と連携している専門高校の取組やその成果を、本道の産業教育の関係者が共有することにより、専門高校における持続可能な職業人材育成システムの構築を促進することを目的に開催した。生徒20名、教員85名、企業関係者68名の合わせて173名が参加し、産学連携の在り方について理解を深めた。

◆発表①「マイスター・ハイスクール事業における連携と成果について」

▶ 北海道厚岸翔洋高等学校教頭 長谷川 智人 氏

【主な内容】

- ・多くの生徒に、「地域に貢献したい」という意識や「課題解決に向け多面的に考え行動することが多くなった」という実感があり、さらに自己肯定感の向上を感じるなど、意識・行動に変容が見られたこと
- ・産学連携による地域課題の解決に向け、3年間で体系的に取り組み、探究活動の充実が図られたこと
- ・自走化に向けた学校設定科目やコミュニティ・スクールの導入等の取組



会場の様子

◆発表②「地元放送局として専門高校を応援する理由～水産高校・農業高校ウィークをとおして～」

▶ 札幌テレビ放送株式会社 大阪 しの 氏

【主な内容】

- ・「地域貢献をとおして、北海道になくてはならない企業になる」という自社の思い
- ・専門高校と連携して取り組んだ企画に対する視聴者からの多くの応援の声と、「もっと応援したい!」という思いから始めた農業高校や水産高校との企画



発表を務めた大阪氏

◆協議

▶ 協議題1-A「地域の担い手を育成する専門高校の役割」（教員・企業関係者）



教員・企業関係者による協議の様子

▶ 協議題1-B「産業界と連携した学びで得られたもの」(生徒)



学科の垣根を越えた生徒による協議の様子

▶ 協議題2「今後取り組んでみたい産学連携のかたち」(教員・企業関係者・生徒)

各グループでは、生徒が協議1で話し合った内容について発表した後、生徒と大人が交わって、今後の産学連携のあるべき形や、どのような連携ができるかなどについて活発な意見交換を行った。



協議1の内容を発表する生徒の様子



生徒を交えた活発な意見交換の様子

◆参加者の感想(一部)

【企業関係者・経済団体関係者】

- ・商品開発から、販売・プロモーションまでの一連の流れを連携して行い、その利益を使ってさらに大きな挑戦をする3か年プロジェクトのような長期的な取組をしたいと感じた。

【教員】

- ・企業の方と教員や生徒が話し合う機会が多くないので、よい経験になった。
- ・まずは積極的に企業の方や経済団体の方と連絡を取ってみたいと思った。
- ・他の専門高校や企業との共同プロジェクトを立ち上げるのも面白いと感じた。

【生徒】

- ・地域との関わりや高校生同士のコラボレーションなどを、もっとやるべきと感じた。
- ・今後も様々なことに挑戦して、疑問や課題を見い出していきたい。



Contents 1

発表①「マイスター・ハイスクール事業における連携と成果について」

北海道厚岸翔洋高等学校教頭 長谷川 智人 氏

発表②「地元放送局として専門高校を応援する理由～水産高校・農業高校ウィークをととして」

札幌テレビ放送株式会社事業局通販事業部 大阪 しの 氏

産学連携 カンファレンス

About Conference

産業界と連携している専門高校の取組や成果を本道産業教育の関係者が共有することにより、道内の各専門高校における持続可能な職業人材育成システムの構築を促進する目的で実施します。

Schedule

2月20日(木)
13:30～16:30

Meeting Place

第二水産ビル
8A会議室
(札幌市中央区北3条西7丁目1)

【参加対象】

- ★ 道内の専門高校で職業学科を担当する教諭等
- ★ 道内企業・経済団体等の関係者
- ★ 道内の専門高校で学ぶ代表生徒
- ★ その他、産業教育に関心のある教育関係者

Contents 2

協議1-A 「地域の担い手を育成する専門高校の役割」
(教員・企業関係者等)

協議1-B 「産業界と連携した学びで得られたもの」
(生徒)

協議2 「今後取り組んでみたい産学連携のかたち」
(生徒・教員・企業関係者等)

※生徒達による協議1-Bの内容を報告後、参加者による協議を行います。

下の二次元コードを読み取り、Googleフォームにて申込みを行ってください。

【1月31日(金)〆切】

学校用



事業所等用



【主催】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係



【図9】チラシ（産学連携カンファレンス）

(2) 刊行物

ア ONE-TEAM ニュース

本事業の取組や専門高校における産学連携の好事例のほか、各種イベントやセミナー等の情報を掲載し、専門高校や産業界等に広く発信した。(年6回発行)

産業界関係者からは「専門高校の取組を知ることができるので発行が楽しみ」との声が多数あった。

イ 職業学科理解推進ガイド

中学生やその保護者、中学校教員等の専門高校への理解を深めることを目的に、職業学科の学習内容や進路先等を小学科などのカテゴリー別に紹介するガイドブックを制作し、全道の中学校に配付するとともに、道教委のウェブページに掲載し、経済団体等に広く周知した。



【図 10】中学生の進路選択における相関図（イメージ）

ウ おしごとガイドブック

専門高校が取り組んでいる「縦」と「横」のつながりにスポットを当てたガイドブックを制作し、道内の中学校1、2年生（約76,500名）及び高校1、2年生（約46,000名）に配付した。

【ガイドブックの主な内容】

- ▶ 産学連携コーディネーターから中高生へのメッセージ
- ▶ 先端技術を活用した産業分野で活躍する専門高校卒業生の仕事内容や、やりがい

<掲載分野>

スマート農業、スマート水産業、半導体関連産業、観光産業、
洋上風力発電、建設 DX、医療、福祉、ファッション

- ▶ 専門高校と地域の企業が連携した取組
- ▶ 学科の垣根を越えた専門高校同士が連携した取組
- ▶ 中学校の技術科と連携した専門高校の取組
- ▶ (中学生版のみ) 産学連携コーディネーターと専門高校生3名の対談
- ▶ (高校生版のみ) 北海道の未来と地域を支える人材育成の取組

エ 産業実務家教員リスト

専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係性をベースに、謝金等が不要で出前授業等が可能な職業人をまとめた「産業実務家教員リスト」を作成して各専門高校に配付し、専門高校における持続可能な人的・物的資源の活用を促進した。

令和6年度から2か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や、各校の好事例、専門高校と産業界との持続可能な連携につながる情報を提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAMプロジェクト」の事業概要

本道においては、次世代半導体製造拠地の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が大きく変化しています。こうした中、職業学科を設置する高等学校では、産業構造や仕事内容の絶え間ない変化に即応した職業人材の育成が急務となっていることから、マイスター・ハイスクール事業（R3～5年度）において静内農業高校が構築した職業人材育成システムを、道内の専門高校に広く横展開するとともに、産業界と専門高校の持続可能な連携の充実を図ることを目的として実施する事業です。

詳しくはこちらの
Web ページから



キックオフミーティングを開催しました。

令和6年7月8日(月)に、本事業について理解を深める「キックオフミーティング」を、会場参集・オンラインのハイブリット方式で開催しました。当日は全道から職業学科を担当する教諭など86名が参加し、本事業の説明や講話、今後の産業界とのサステナブルな連携の在り方について、研究協議が行われました。

○発表「マイスター・ハイスクール事業の研究成果について」

(静内農業高校 工藤 淳 教頭)

静内農業高校における実践事例や、今年度より取り組んでいる自走化した職業人材育成システムの仕組みなどについて発表していただきました。

○基調講話「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」

(北海道農産協会 専務部長 桑名 直人 氏)

産業界との連携を進める上でポイントについて、静内農業高校の事例をもとにした説明があり、信頼関係の重要性や、産業界と持続的に関わるプラットフォーム形成に頼っているお話をしていただきました。

静内農業高校の詳細な取組はこちらのWebページから



説明する静岡農業高校 工藤教頭



講演する桑名氏（左）と参加者（右）

○協議「自校における持続可能な産業界との連携について」（産学連携コーディネーター 月館 海斗 氏）

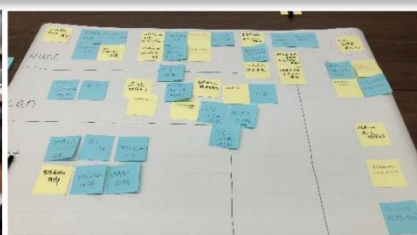
会場と、オンライン併せて全 11 グループで研究協議を行いました。学校と産業界との望ましい連携の在り方について、「生徒」「地域」などのそれぞれの視点から、「理想の姿」を設定し、その実現に向け、「自分たちに何ができるか」、「何が必要か」をテーマに、今すぐ実践できる取組について考えました。学科の垣根を越え、異なる学科の先生方で協議を行ったことで、「新たな視点や気付きが多くあった」、「もっと協議の時間がほしい」との声も多く、充実した時間となりました。



協議のファシリテーターを務めた月館氏



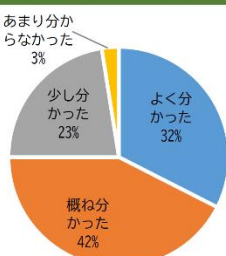
グループワークに取り組む参加者



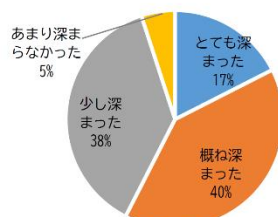
グループワークの内容をまとめた様子

参加者の声（アンケート調査の結果より）

Q 本事業の概要が分かりましたか



Q 専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について、今後のイメージは深まりましたか



参加した感想、意見、要望等

- 様々な視点からのお話で、気付きが多くあった。
- 職業学科の学習内容を、産業界に目置かれる状況にすることで、職業高校の存在価値を高められると感じた。
- 地元企業とのつながりを密にできる取組が必要。
- 学校それぞれの取組にならず、各校が連携できるような体制や仕組みづくりが必要。

など



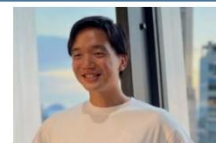
産業界と学校との連携を支援する「産学連携コーディネーター」

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」において、学校と産業界との連携を支援する「産学連携コーディネーター」を担当する月館海斗氏のコメントや、キックオフミーティングの感想、コーディネーターの役割について紹介します。

この度、本事業の産学連携コーディネーターを拝命いたしました株式会社すみかの月館です。私自身、教員経験を通して、学校と社会の連携は非常に重要だと感じた一方で、仕事量の多さから連携が困難であることも感じました。

キックオフミーティングでは、本事業を進めていくに当たって、まずは皆さんの想いを共有したく発散形式の協議を行いました。この協議にて、各職業学科の先生方から地域を巻き込んだスポーツイベント（文化祭）の開催や、地域とつながるために先生が率先して外部イベントへ参加することなど具体的なアイデアが多数出されました。

今後は、コーディネーターとして、先生や学校だけでは実現できなかった教育機会の充実を実現できるようサポートしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



月館 海斗 氏

主な経歴等

- ・株式会社すみか代表取締役（立命館慶祥中学校教員を経て、会社設立）
- ・厚岸翔洋高校マイスター・ハイスchool事業伴走者
- ・札幌市「市立高校コンシェルジュ」任命
- ・その他教育現場での教育支援プログラムを実施

※産学連携コーディネーターの主な役割

①人的ネットワークの構築

職業学科の指導主事と連携し、学科の特性に応じて専門高校と、産業界を人的につなげる

②産業実務家教員リストの作成

謝金等が不要で、出前授業等が可能な職業人をデータベース化し、専門高校と産業界のつながりを後押しする

③産業構造の変化に対応

先端技術に従事する技術者を紹介したお仕事ガイドブックを制作



好事例の紹介

学校と産業界の連携において、先進的な事例や特色ある取組を紹介します。是非各校で自走可能な連携の取組を考える上での参考にしてください。今回は**室蘭工業高校**における、**地域の建設業協会と連携した人材育成**についてです。

【室蘭工業高校】建設業協会との緊密な連携

- ・3つの建設業協会と企業実習に関する連携協定を締結（R6.2月）
- ・道内の工業高校としては初となる革新的な取組
※年間15日程度の企業実習を想定
※R8の本格実施に向けて、R6より施行実施
- ・育成する人材像を具体化して共有するほか、**企業実習プログラム**を共同で開発



教員向け建設 DX 理解促進セミナーの実施について（案内）

高等学校において進路指導を担当する教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図るため、建設DX理解促進セミナーを開催します。

1 日時

令和6年9月26日（木）14:00～15:30
※Zoomによるオンライン

2 内容

- (1) 講演「DX化に伴い変革が進む建設業における業務内容と働き方」
講師 荒井建設株式会社 取締役土木技術部長 岡崎 竜志 氏
- (2) 説明「建設業における新しい職域『建設ディレクター』について」
説明者 一般社団法人建設ディレクター協会 藤田 歩実 氏
- (3) 説明「建設ディレクターの育成について」
説明者 ヤマグチ株式会社土木部工事管理室
ビジネスイノベーション推進課長 馬場 洋介 氏
- (4) 体験談「建設ディレクターとしてのやりがい」
発表者 ヤマグチ株式会社土木部工事管理室 長坪 和 氏
原田 杏瑞 氏
- (5) 事例発表「地元建設業協会と連携した企業実習の取組」
発表者 北海道室蘭工業高等学校環境土木科長 鈴木 圭吾 教諭

3 申込方法・その他

各教育局からの通知に従い申し込んでください。



企業と連携した人材育成の在り方の参考とするほか、新たな産業や働き方を学ぶ機会として、工業科以外の先生にも広くお勧めします！



令和6～7年度の2か年実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」についての取組や、各校の好事例、専門高校と産業界との持続可能な連携につながる情報を提供します。

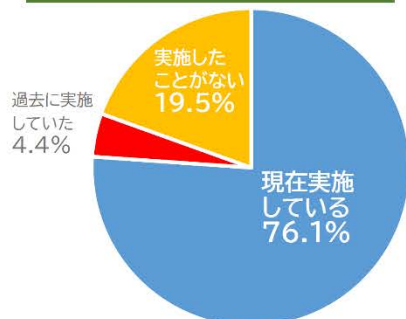


学校ヒアリング調査の結果について

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」を、学校と産業界との連携促進に資する取組とするため、道内の職業学科（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉）を設置する道立高校を対象に、連携についての現状や考え方について「学校ヒアリング調査」を実施しました。その結果の一部を報告します。

- 調査対象：職業学科を設置する道立高校（小学科ごとに回答）
- 実施期間：令和6年7月8日～令和6年7月29日
- 実施方法：Google フォームによる回答
- 回答数：159件（農業34、工業62、商業49、水産9、家庭2、看護2、福祉1）

1 産業界と連携した教育活動を実施していますか。



2 連携している（していた）企業又は大学・団体等と、主な内容を教えてください。

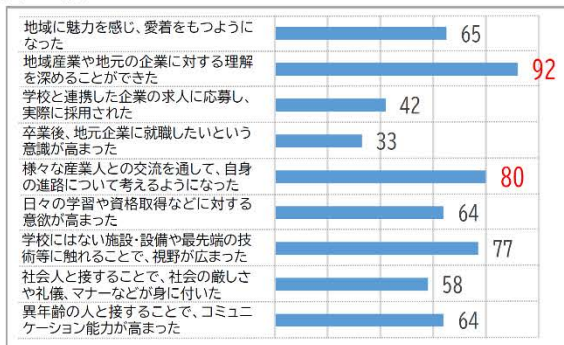
※回答の一部を抜粋

- 【農業科】小売・物流業者と連携した**地域の主要農産物の販売促進**に向けた取組
- 【工業科】開発局、地元建設業協会と連携した**施工管理能力の育成**を目指した取組
- 【商業科】食品製造業者と連携した**地元の特産物を使用した弁当開発・販売**の取組
- 【水産科】地元漁協と連携した**対象魚種の販路拡大**を目指した**缶詰の製品化**の取組

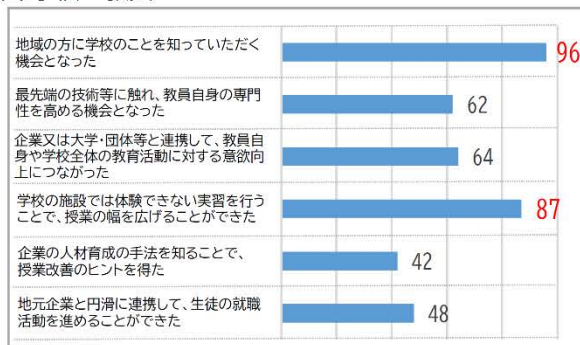
連携の内容については、各学科の**専門性を生かした取組**や、**学びを深める取組**が多いことが分かりました。

3 産業界と連携した教育活動を実施して、生徒や教員、学校にとってどのような成果や変容がありましたか。（複数回答可）

(1) 生徒



(2) 学校・教員



連携した教育活動を行っている学校では、グラフのとおり、生徒、学校・教員ともに多くの成果を感じていることが分かりました。産業界や地域との連携を通じた学びによって、生徒は**地域に対する理解が深まること**や、**進路について考えるようになること**、学校・教員は、**学校に対する理解が深まること**や、**授業の幅が広がること**などに効果を実感していました。

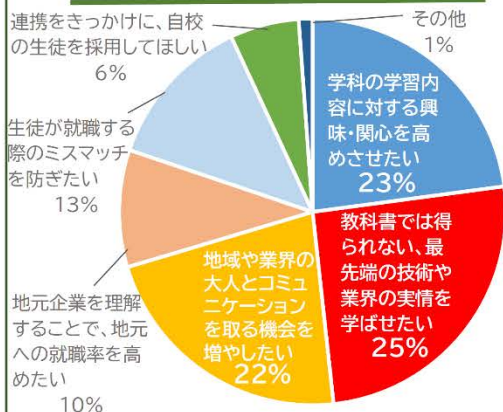


4 今後、連携してみたい産業界の分野・企業・団体等について教えてください。

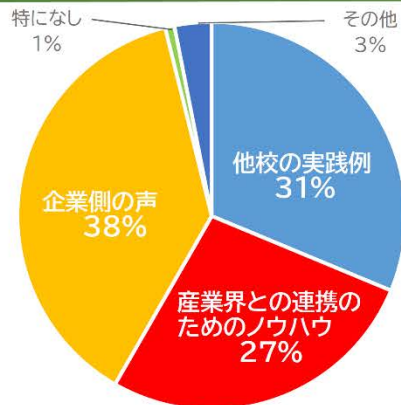
- ・最先端ロボットやドローンによる画像認識処理技術
- ・大学病院等で活躍している医療スタッフによる授業
- ・地元企業とコラボしたアンテナショップ経営
- ・学校産の農産物を用いた、企業・自治体と連携した商品開発
- ・半導体関係の技術者による技術指導
- ・デザイン系の業界とのパッケージデザイン
- ・道総研と連携した水産に関する新商品の開発
- ・大学との連携 など

先端技術に関わることや、商品開発について、連携して取り組みたいという意見が多くありました。また、企業にとどまらず、**大学や研究機関と連携したい**という意見もありました。

5 産業界と連携した教育活動を行う場合、連携先に期待することは何ですか。（複数回答可）



6 産業界と連携した教育活動を行うに当たって、あなたが知りたいことは何ですか。（複数回答可）



7 産業界と連携したことがない学校において、連携した教育活動を実施していない理由を教えてください。（複数回答可）



多くの学校で産業界と連携した取組を実施している一方、連携したことがない学校が約20%あり、左図のような要因が見えてきました。道教委では、学校と企業が連携した好事例の紹介や、産業実務家教員リストの作成等を通して、この課題解決につながるよう取り組みます。



本調査に御協力いただき、ありがとうございました。



産学連携シンポジウムの開催について

専門高校と産業界の持続可能な連携体制の構築に向けて、企業や経済団体の関係者、教育関係者を対象に、本プロジェクトの内容や専門高校と産業界における連携の意義等を共有するシンポジウムを開催します。

1 日時

令和6年11月18日(月)13:30~16:30
※Zoomによるオンライン参加も可

2 運営会場

第二水産ビル 4S会議室(住所:札幌市中央区北3条西7丁目1)

3 内容

(1) 説明「本事業の概要等について」

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の事業概要について、説明します。

(2) 発表①「産業界と連携した学びで私が得たもの」

専門高校で学が生徒が、授業での学びや、そこから得た気付き、進路目標等について発表します。

(3) 発表②「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」

専門高校と連携を行っている企業の実践事例と、連携によって生まれたメリット等について紹介します。

(4) パネルディスカッション「専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方について」

産業界、専門高校の在校生・卒業生の代表者が、高校と産業界のよりよい連携の在り方について、パネルディスカッションを行います。

4 申込み方法

参加申込みは、右の二次元コードを読み取り、Google フォームにて行ってください。
(申込み締切:令和6年(2024年)11月11日(月))



高校と産業界における持続可能な連携のヒントが得られる絶好の機会です。
多くの御参加を、お待ちしております！

※詳しくは、高校教育課ウェブページに掲載されているチラシ、または、各企業や団体、学校へ配付されている要項等を御確認ください。



【図 14】 ONE-TEAM ニュース第2号 (2 ページ目/全2 ページ)



令和6年度から2か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や、各校の好事例、専門高校と産業界との持続可能な連携につながる情報を提供します。



『産学連携シンポジウム』を開催しました

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」における取組が、専門高校と産業界の持続可能な連携に資するよう、事業の内容や連携の意義等について情報を共有することを目的として、11月18日(月)に『産学連携シンポジウム』を開催しました。企業・学校関係者など、会場参集・オンライン参加を合わせて137名に参加いただき、持続可能な産学連携の在り方及び今後の北海道における職業人材育成について考える機会となりました。今回は、発表いただいた主な内容や、パネルディスカッションにおいて発言された意見等について紹介します。

発表①「産業界と連携した学びで私が出たもの」

- 静内農業高校 生産科学科3年 三浦 聖晴 さん
 - ・中央競馬会・高専と連携して取り組んだ馬の裂蹄治療についての学習や、軽種馬牧場におけるデュアルシステム^(注)による実践的な学習について
 - ・産業界と連携した実践的な学びを通して「地元の牧場へ就職したい」という進路目標が生まれたことについて
 - ・「専門高校の学びは地域の関係機関や産業界との連携が重要である」との実体験を踏まえた意見

(注)デュアルシステムについては下記 URL 内、令和5年度版リーフレット(道教委作成)参照

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/career.html>



静内農業高校 三浦さん

- 札幌工業高校 土木科3年 飯島 道大 さん
 - ・企業の協力による新幹線のトンネル工事現場の視察研修や、先端技術に関わる実技講座など、3年間の系統的な専門性の高い学習について
 - ・地域の広場の整備に関わる産業界と連携したプロジェクト学習(通路の整備、ベンチの製作)などの実践的な学習について
 - ・学習を通して、将来は、「国や地域に貢献する技術者になりたい」という目標を持つようになった理由について



札幌工業高校 飯島さん

- 旭川商業高校 流通ビジネス科3年 佐藤 藍 さん
 - ・ノーステック財団や地元企業の支援を得て、旭川商業高校と取り組んだ「Project A」での学習について
 - ・産業界と連携した学習を通して、商品開発や物流についてなど、日常の授業だけでは学習することができない多くの学びがあったことについて
 - ・長期間に渡る産学連携が、多くの充実した学びにつながったことや、異校種間連携による6次産業化の学びの重要性について



旭川商業高校 佐藤さん



国分北海道株式会社 萩庭氏による発表

発表②「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」

- 国分北海道株式会社人事総務部長 萩庭 寿人 氏
 - ・企業側の視点から、専門高校と連携に至ったきっかけ
 - ・マイスター・ハイスクール事業における静内農業高校での取組について
 - ・水産高校との商品開発や農業高校との連携事業などの実践事例について
 - ・高校との関わりが企業側にどのような効果をもたらすのか、また、社会を幸福にする好循環をいかにして創るのかについて
 - ・取組の背景にある自社の理念や、北海道の産業全体を元気にしたいという地域産業活性化に向けた思いについて

パネルディスカッション「専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方について」

7名をパネリストに迎え、産学連携コーディネーターによる司会の下、意見交換を行いました。
主な発言内容は次のとおりです。

<産業界>

- ・産業界全体を考えて、人材育成につながる産学連携をするべき
- ・行政、学校、企業の役割分担をして ONE-TEAM で取り組むことが重要 など

<高校生>

- ・早いうちから産業界について知る機会が欲しい
- ・企業の方と初対面では質問もしづらいので、長期的な関わりの機会が欲しい など

【司 会】

- ・北海道教育庁学校教育局高校教育課
産学連携コーディネーター 月館 海斗

【パネリスト】

- ・静内農業高校生産科学科3年 三浦 聖晴 さん
- ・札幌工業高校土木科3年 飯島 道大 さん
- ・旭川商業高校流通ビジネス科3年 佐藤 藍 さん
- ・国分北海道(株)人事総務部長 萩庭 寿人 氏
- ・北海道経済連合会常務理事 百瀬 康弘 氏
- ・(株)砂子組企画営業部部長 真坂 紀至 氏
- ・国分北海道(株)道央支社道央支店
営業業務担当 高橋 柚珠乃 氏
(R5年度静内農業高校卒業)



司会の月館コーディネーターと三浦さん



左から飯島さん、佐藤さん、国分北海道 高橋氏



活発な意見交換の様子



パネルディスカッション中の会場の様子



左から国分北海道 萩庭氏、道経連 百瀬氏、砂子組 真坂氏

まとめ

○ 産学連携コーディネーター 月館 海斗

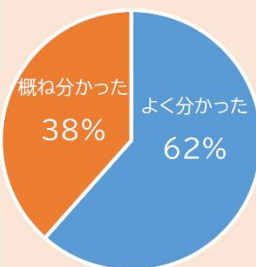
- ・自社の採用のためだけではない、産業界全体の活性化に向けた人材育成の取組に感謝する。
- ・専門高校と産業界の長期的なつながりが人材育成に重要である。
- ・生徒から、「チャレンジできる環境が欲しい」という要望は、産業界にとっても、今後につながる気付きとなった。
- ・教育委員会としても地域、業界を越えたコンソーシアムづくりをすることで、学校と産業界がフラットな関係で共創する関係、企業と学校が社会を一緒に創っていく関係を構築していけるよう取り組みたい。



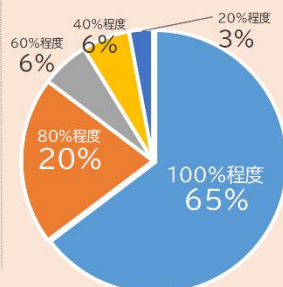
司会を務めた月館コーディネーター

参加者アンケート

○ 本事業の概要が分かりましたか。



○ シンポジウムの満足度は何%でしたか。



○ シンポジウムに参加し、実践してみたいと考えた内容

- ・あらためて学科間連携や職業学科同士の学校連携を積極的に行っていきたいと感じた。(学校関係者)
- ・業界全体で産学連携に取り組む必要性を感じた。(企業関係者)
- ・生徒が「自分の興味を深掘りする大切さ、楽しさを感じているが、一方で知らない分野を知ることの大切さも感じた」という一言が印象的だった。生徒がいろいろな仕事について知ることができる場所も必要だと感じた。(その他)

○ 参加した感想

- ・高校生の発表レベル、活動のレベルの高さに驚かされた。(企業関係者)
- ・人口減少の中、「企業とともに」という考え方を、企業側から聞くことができ、心強く感じた。(教育委員会担当者)
- ・生徒と大人がフラットに意見を言い合っ、みんなで未来を考える、素敵な場であると感じた。(その他)

御参加いただきました皆様、本当にありがとうございました！



マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」

ONE-TEAM News

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

第4号

令和7年(2025年)

1月16日

令和6年度から2か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や専門高校と産業界との持続可能な連携など、各校の好事例について参考として情報提供します。



『高校生チャレンジ in どさんこプラザ』を開催しました

令和6年12月13日(金)、14日(土)の2日間、道立高校の生徒が学科の枠を越えて連携し、地域の企業等と協働で開発した商品を販売することなどを通して、学校や地域の魅力を広く周知するとともに、協働のためのコミュニケーションや6次産業化を学ぶ機会とするイベントを、北海道どさんこプラザ札幌店で開催しました。

○販売した商品と開発に携わった学校・企業

函館水産高校×(株)合食 函館第一工場



函館あさひ ばりほぐし

道産ぶりの活用、地域活性化を念頭に、函館水産高校の生徒が試行錯誤を重ねた試作品を地元企業の協力を得て商品化したものです。デザインやラベルにもこだわり、ブリの生命力と地域の想いが表現されています。程よい塩味と酒粕の風味が香る商品です。

富良野緑峰高校×(有)共済農場



富良野トマトパテ

地元企業と総合ビジネス科商業クラブの生徒が協働で開発した商品です。地元の食材を使用し、トーストや野菜のほか、クラッカーやチーズにのせるなど、様々なアレンジで楽しむことができる商品です。

下川商業高校×(有)たばた商事



しいたけうどん

毎年実施している札幌市内での販売実習会に向けて、下川町にある手延べうどんの製麺所と協働して開発したオリジナルうどんです。下川産小麦「はるゆたか」に、下川町産のしいたけのパウダーを練り込み、しいたけの風味が香る商品に仕上がりました。

留萌高校×(株)フタバ製麺



とばせん

3年生の課題研究の中で「鮭とばの皮を利用した名産品の作成」というテーマのもと、地元企業の協力をいただき、鮭皮を油で素揚げし塩味に仕上げた商品です。パリッとした食感が特徴で、「とばせん」というネーミングは生徒が考案しました。

更別農業高校×北海道エア・ウォーター・アグリ(株) 十勝更別工場



さらのう キーマ さらのう RED キーマ

更別村が作付面積・生産量ともに日本一の大豆(さらのうキーマ)と金時豆(さらのう RED キーマ)を使用したキーマカレーを開発しました。更別産の「コーン」や「すもも」も使用。村の味覚がたっぷり入った商品です。

根室高校×(有)根室菓舎 はやかわ



しまふくろうサブレ しまえながサブレ さんまサブレ

地元企業と商業科3年生の生徒が協働で開発した商品です。3商品とも生徒が考えたオリジナルの型を使用して製造しており、「しまふくろうサブレ」はバタークリームを挟んだ商品になっています。

○販売会に向けた準備

□ POPの作成



□ チラシの作成



□ ポスターの作成



POPは商品開発を行った学校で作成し、チラシとポスターは苫前商業高校の生徒の皆さんが作成しました。

マーケティングに関する学習を踏まえ、商品の特徴がよく伝わる仕上がりとなりました!

